

# 那覇港港湾計画 一部変更

平成24年7月5日  
交通政策審議会  
第49回港湾分科会  
資料 4-2



# 那覇港の現況

**【新港ふ頭地区】**  
(-13.0m×2B、-11.0m×6B、-7.5m×9B、-5.0×2B:供用中)  
・計画値  
《外貿》997万トン(トランシップ)  
《内貿》450万トン(特殊品、機械類、フェリー貨物等)  
・H 23年実績  
《外貿》119万トン(取り合わせ品、製造食品、再利用資材等)  
《内貿》591万トン(取り合わせ品、その他輸送機械、完成自動車等)

浦添ふ頭地区外内貿ユニットロードターミナル

新港ふ頭地区

臨港道路(浦添線)  
平成26年度供用予定

国際コンテナターミナル  
平成18年1月に供用

浦添ふ頭地区

泊ふ頭地区大型旅客船ターミナル

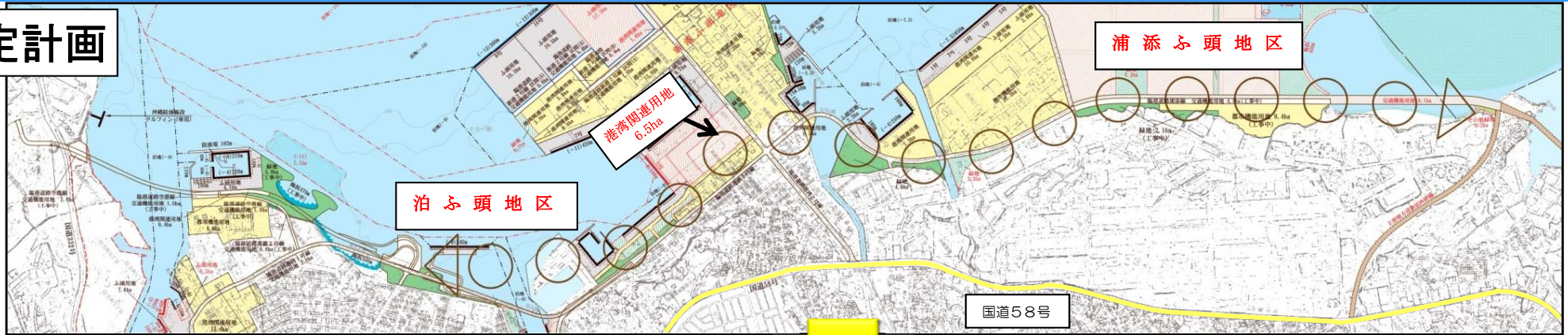
那覇ふ頭地区

臨港道路(空港線)  
(那覇西道路)  
平成23年8月に供用

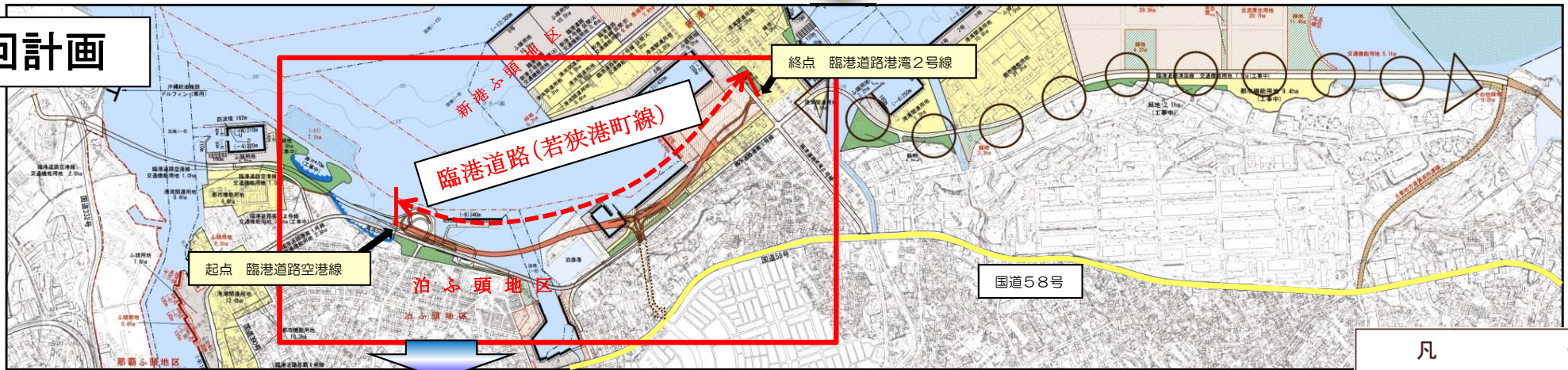
泊ふ頭地区

# 計画変更内容

## 既定計画



## 今回計画



凡 例	
	交通機能用地 (既定計画)
	臨港道路 (計画)
	その他道路 (計画)
	道路 (将来構想)

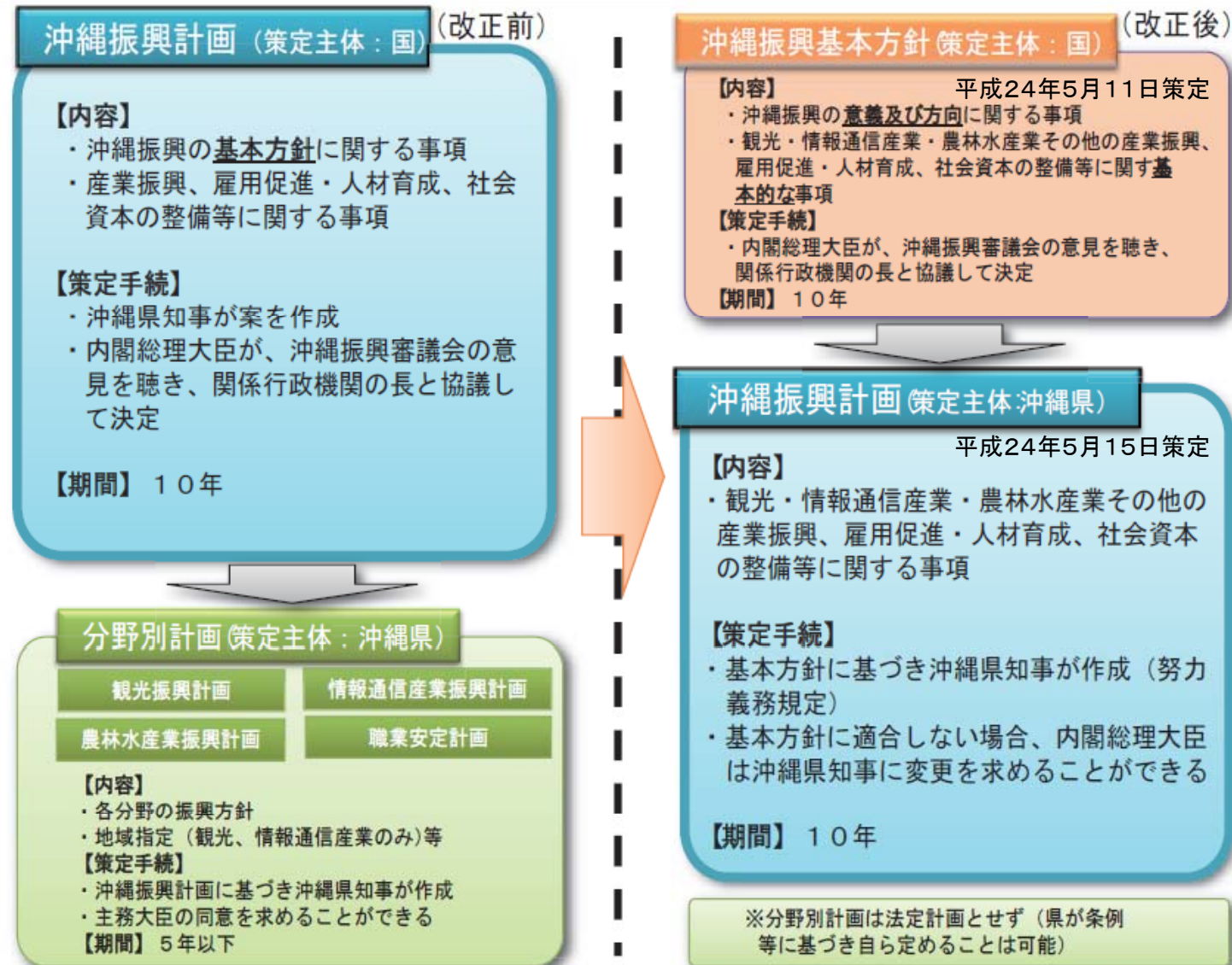
**臨港交通施設計画**  
 [今回計画] 臨港道路 (若狭港町線)  
 起点 泊ふ頭地区 臨港道路空港線  
 終点 新港ふ頭地区 臨港道路港湾2号線 6車線

**土地利用計画**  
 [既定計画] 新港ふ頭地区 港湾関連用地 6.5ha  
 [今回計画] 新港ふ頭地区 港湾関連用地 6.0ha 交通機能用地 5.5ha  
 泊ふ頭地区 交通機能用地 2.9ha

# 沖縄振興基本方針及び沖縄21世紀ビジョン基本計画について

- 「民間主導の自立型経済の発展」という沖縄振興の基本方向を大きく前に進めるため、沖縄振興特別措置法の一部を改正(平成24年4月1日施行)することにより、沖縄振興計画の策定主体を国から県へ変更。
- 今後、県は沖縄振興基本方針に基づき、主体的に沖縄の振興に取り組むこととなる。

## 沖縄振興法制における計画体系の変更



# 今後の那覇港が目指す姿

## <沖縄振興基本方針における那覇港の位置づけ>

- ・国際物流拠点の形成を図るため、関連するインフラの整備等を目指す。

## <沖縄21世紀ビジョン基本計画(沖縄振興計画)における那覇港の位置づけ>

- ・那覇港においては、臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成及び国際流通港湾としての機能充実を図る。

### 【人流を支える港湾の整備】

#### <国際旅客ターミナル>

- ・海洋レクリエーション活動に対応したコースタルリゾート及びウォーターフロントの整備。



### 【人流・物流を支える港湾の整備】

#### <臨港道路>

- ・**那覇空港やふ頭間等とを結ぶ臨港道路の整備。**

### 【物流を支える港湾の整備】

#### <国際コンテナターミナル>

- ・ガントリークレーン増設を含む国際コンテナターミナルの整備。



### 【臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成促進】

- ・ロジスティクスセンター建設及び背後地の整備。
- ・各種規制緩和措置。
- ・航空物流ネットワークの拡充。



### 【観光リゾート関連産業の振興】

- ・糸満市から浦添市に至る西海岸地域において、リゾート、ショッピング、マリーナ・人工ビーチ等施設を集積し、諸外国や県内外との交流拠点を形成。



臨港道路(空港線)(沖縄西海岸道路)  
平成23年8月に供用

臨港道路(浦添線)  
平成26年度供用予定

臨港道路若狭港町線(沖縄西海岸道路)

# 臨港道路港湾1号線の混雑状況

- ・那覇港の貨物の約70%を占める主要動線である臨港道路「港湾1号線」は朝夕を中心に日中も渋滞が発生。
- ・新港ふ頭地区において、ロジスティクスセンターの開業等により、今後、ますます交通量の増加が見込まれる。

①港湾1号線 泊大橋



【臨空・臨港型産業の集積による国際物流拠点の形成促進】イメージ(H27開業予定)

- ・ロジスティクスセンター建設及び背後地の整備を推進する。
- ・各種規制緩和措置
- ・航空物流ネットワークの拡充



③曙交差点 港湾1号線方面



臨港道路(浦添線)

②港湾1号線 泊大橋



④港湾1号線

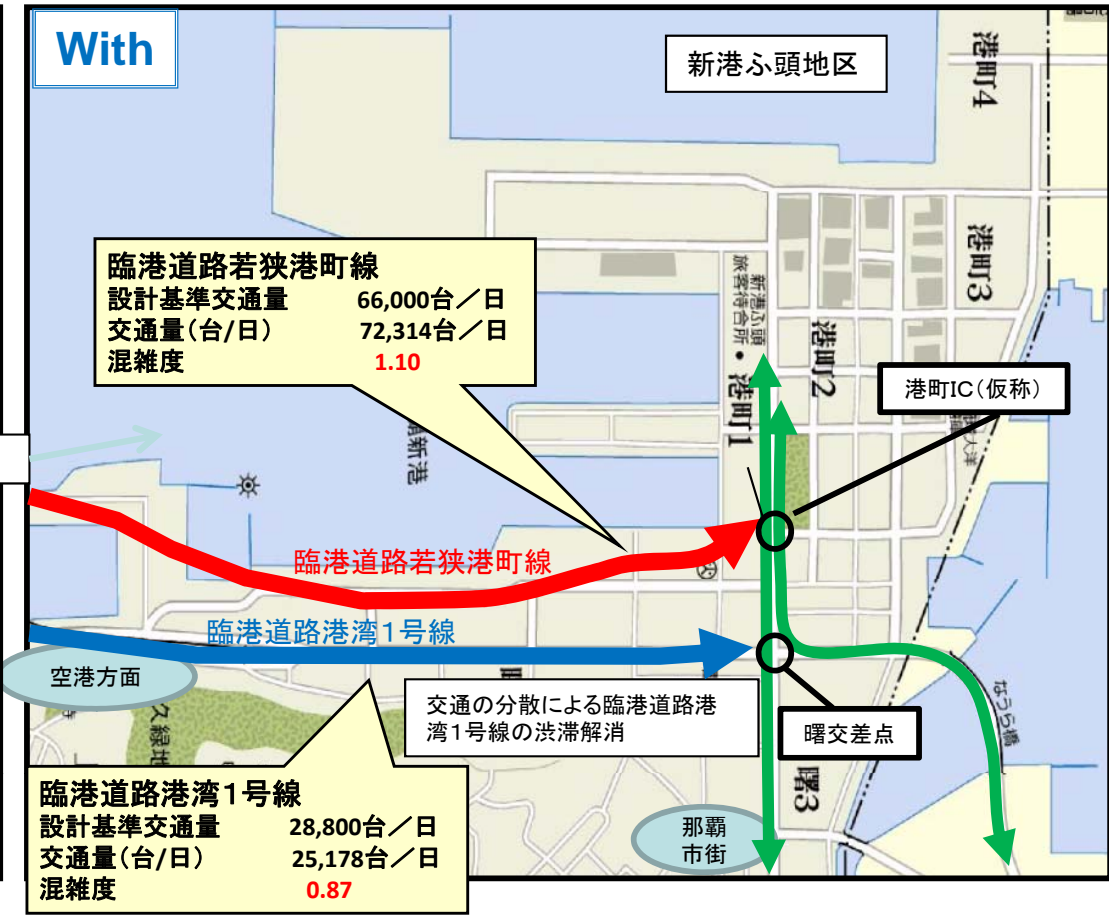
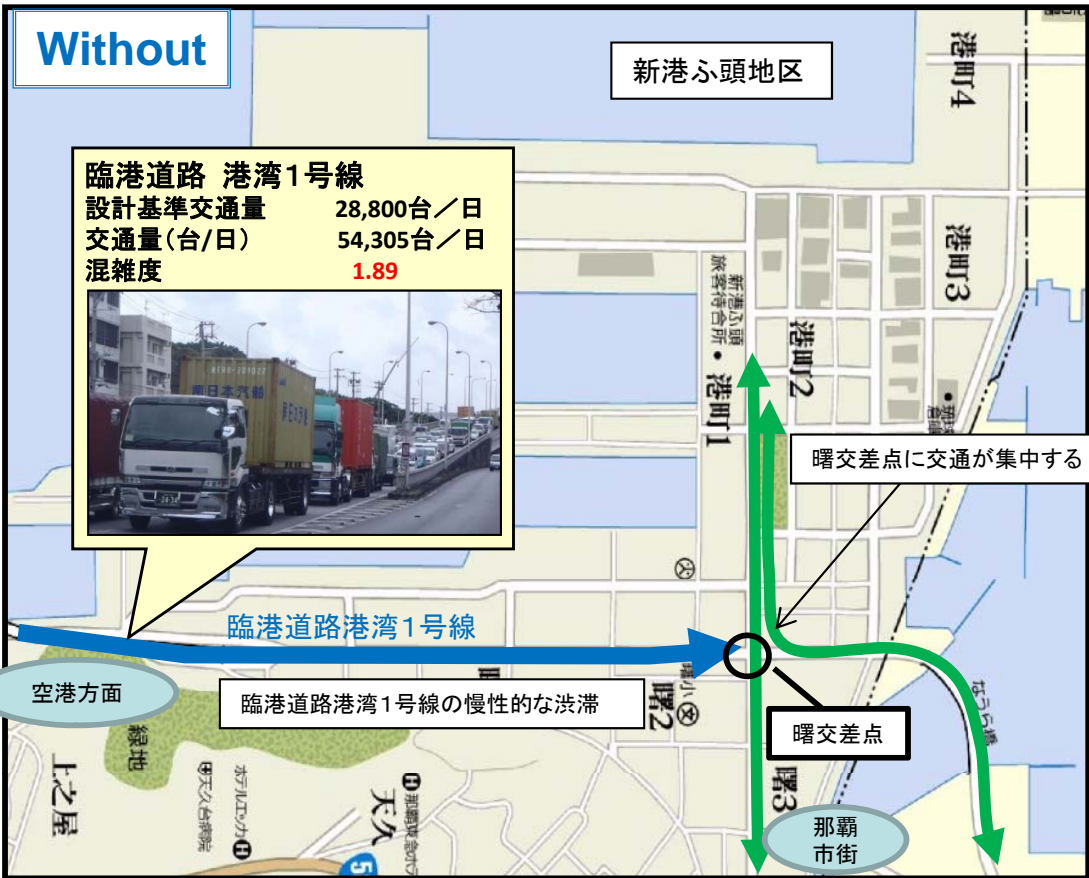


臨港道路(港湾1号線)

国道58号

# 臨港道路若狭港町線の整備による効果（将来試算）

- ・現状では、臨港道路「港湾1号線」は慢性的に渋滞しており、新港ふ頭地区に向かう港湾関連車両の円滑な動線確保が大きな課題である。
- ・臨港道路「若狭港町線」が整備された場合、南部方面及び空港からの車両は当該道路を通り、交通が集中する曙交差点を經由することなく新港ふ頭地区へアクセスできるようになるため、交通が分散し、円滑な交通が確保される。



※混雑度とは  
 $混雑度 = (交通量(台/日)) / (設計基準交通量(台/日))$  で算出される。混雑状態については以下の通り。  
 1.0以上～1.25未満 昼間12時間のうち道路が混雑する可能性のある時間帯が1～2時間(ピーク時)ある。何時間も混雑が連続するという可能性は非常に小さい。  
 1.25以上～1.75未満 ピーク時はもとより、ピーク時間を中心として混雑する時間帯が加速的に増加する可能性の高い状態。ピーク時のみの混雑から日中の連続的混雑への過渡状態と考えられる。  
 1.75以上 慢性的混雑状態を呈する。

# 周辺の地域高規格道路計画

- ・沖縄県西部の読谷村から糸満市に至る延長約50kmに渡り、那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港等の各拠点を結ぶ地域高規格道路(沖縄西海岸道路)が計画・整備されている。
- ・那覇北道路(臨港道路「若狭港町線」)は、地域高規格道路の一部を形成しており、那覇港・那覇空港へのアクセス向上に資するため、県知事をはじめとする地元関係者から早期整備が期待されている。

地域高規格道路(沖縄西海岸道路)の整備状況図



地域高規格道路(沖縄西海岸道路)(50km)



# 確認の視点

確認事項	国としての確認の視点
	基本方針※
効率的で安全性・信頼性が高い輸送体系の構築	港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針 ・これらの多様な要請に対応して、港湾が社会から求められる機能を的確に発揮するため、港湾においては、 <u>我が国における産業の国際競争力の強化と国民生活の質の向上を支える、効率的で安全性・信頼性が高く環境負荷の小さい輸送体系を構築していく。</u>

※港湾の開発、利用及び保全並びに開発保全航路の開発に関する基本方針(平成23年9月15日施行)